

東都古刹めぐり (3)

東京上野浄名院の八万四千
体地蔵の一部

嶋内義治

八万四千体地蔵の浄名院
と百観音の明治寺

に至っており現在大体一萬四千余
体の地蔵さんが建てられている
との事である。

願文

伝へ聞く大聖釈迦牟尼、仏滅後
幾百年に阿育大王天竺に出て八万
四千の石宝塔を一閣浮提に建て、
上は仏恩に報じ、下は衆生を救ひ
給う。吾も又発願す。生前死後、
自他の人を合わせて八万四千の石
地蔵尊を此の娑婆世界に建立し、
一は仏祖の洪恩に酬い、一は燒末
の衆生を救はんを願し、自ら地蔵
尊の真影を拝写すること又実に八
万四千体、是を以て普ねく八万
四千人に授けて其の受施をして必
ず一体建立の善縁を結ばしむ。而
して建立の資縁は吾日日に多門
天、大黒天の護世三天へ種々の雨
宝を祈念して止まず。是の因縁を
以て八万四千乃至聞覚知の結
縁の衆生をば生々世々父母とし兄
弟とし姉妹とし資師とし未來際永
く地蔵尊に随順し奉事して三具六
道の一切衆生を弘済せんことを茲
に地蔵大士の尊前に誓願し奉る。

維時明治十二年三月二十四日
弟子妙蓮敬白、年五十三

妙蓮和尚の事に就ては詳しい事
は判っていないが一般に地蔵比丘
と云う名で親しまれたと云う事

あり浄名院は律宗だとの事であ
る。

明治寺は新宿又は高田馬場から
の西武鉄道電車での沼袋駅下車、
右手へ徒歩約三分行った処の東京
都中野区沼袋二一八にある小さ
なお寺である。草野栄照尼と云う
方が明治天皇の御惱平癒をお祈り
して開いたとの事であるから未だ
新しいお寺である。西国三十三ヶ
所、坂東三十三ヶ所、秩父三十四
ヶ所の合計百ヶ所の本尊の観音さ
んを写した百体の石刻の観音象を
公園風の境内の築山の一帶に配置
よく並べお祀りしておるのが当寺
の百観音のお姿で明治天皇御平癒
祈願であったので各界の名士がす
すんで浄財を寄付して、これらの
観音像が造建されたとの事であ
る。

各像の背面には夫々写した先の
札所、お寺の名前、本尊名等が刻
まれて居り克明に一仏、一仏見て
廻れば居ながらにして西国、坂
東、秩父の札所廻りも済もうと云
うもの。立像あり、坐像あり大小
あり、新しい石像乍らく出来て
おり是非一度御参拝をおすすめし
たい。

以上



東京中野区沼袋の明治寺
百観音の一部



上野、浄名院は東京都台東区上
野桜木町四一にあり国電鶯谷駅よ
り徒歩約十分、上野寛永寺の隣の
お寺で本堂、庫裡等余り大きなお
寺ではないが境内にはお地蔵さん
又お地蔵さんで誠に八万四千体地
蔵と称せらるだけの大偉観であ
る。此のお寺は文政十年頃(一八
二七年)生まれられた妙蓮和尚と
云う方が嘉永三年(一八五〇年)
一千体の地蔵を此の境内に建てら
れたのが基となって爾来年々其の
数を増し明治十二年三月二十四日
付の後記、願文の通り八万四千体
の地蔵建立実現に努力されて今日

断末魔に喘ぐ

サクラビールの想い出

山岡弥之助

先日柳田さんのお端書中にて小
生サクラビール勤務中の想い出を
何か書けとの事ですが、私も私な
りに門司本社に勤務中併に大阪支
店長時代は、鈴木商店の子会社と
して金融問題からんで、実に苦
しい時でしたし御承知の様昭和
の初め鈴木商店に渡した融通手形
が落ちないために、ビール会社で

その手形を落さねばならず、銀行
からは日々厳しい督促で販売と
ころでなく、当時の平高、福井、
平山の三部長と金子直吉翁が特
ビルル会社に派遣された戸坂隆吉
さん(支配人)と協議の結果、我
々も金融に走り廻ることとなり、
毎日特約店を訪問しビールを担保
に現金を集めることに懸命で、休

日も返上でした。そして我々とし
て一番困ったことは、まづ手形を
落すことと財務局へ納める税金を
支払うことが先決ですから、我々
はまともに俸給を貰い得ず、月に
三回位の割払いで貰ったことが大
分永く続き、戸坂支配人が度々す
まぬことだと涙せんばかりに言わ
れ、逆にご同情したことがあり生
活費のなくなった際は、夜そっと
家内を質に行かせたことも度々で
した。会社の作業は何時止まるか
計れないので現金を抱いて帰社の
途中、会社の煙突を見て煙が昇っ
て居るや否やを見定め、帰社し戸
坂さんの喜ばれる顔を見たもので
した。

そんなことをしておる間にこん
どは担保のビールが流れ出して、
各地の酒類ブローカーが安売した
ため、真面目の特約店が怒り出し
低頭平身で陳謝して廻る等々の中
に、またまた財務局が税金の抵当
として落した会社の株を競売にか
けたので、これを他方へ渡らぬよ
う金策をせねばならぬことになり
ましたが、こんどは以前のような
わけには参らず、大特約店を訪い
ても言うことをきいてくれず、そ
のままにしておけば他のビール各
社が競落する動きが出だし、そこ
な事になれば我々社員全部は惨

めな日を見ることになるにより、
いろいろ協議の末、どうにもなら
ぬかも知れないが、我々で代表を
作って金子直吉翁に面会し、何ん
とか良い智慧を出してもらおうと
いうことになり、昭和二年一月、
私もそのうちの一人に加わり上
神、五名で隅田社長共々柳田邸に
於いて金子さんと面談したところ
(本店として立合われたのは鈴木
岩治郎氏、金子直吉氏、平高寅太
郎氏、竹岡三氏らであった)そ
の結果は金子さんのいわれるの
は、諸君の意向はよく判るが、今
日僕に良い智慧が出るようなら、
もつと以前に出ておるはずだから
折角来てくれたが、何もうこと
がない故帰って来てといわれたの
で、われわれ今から思えば失礼な
ことをいったと遺憾に思っており
ますが、当時は未だ若かったので
カッとして金子さんに喰ってかか
りましたなれど、流石に海山十年
の事業家である翁だけに、怒りも
せず軽く論され、柳田邸を去られ
る。(但し不気嫌な表情は隠し
切れなかったのと平高氏は立腹の
あまり代表者の一人を叩かうとし
たが偶々編者が飛び出して大事に
ならなかった)

宏堂

MILLIKEN BUILDING

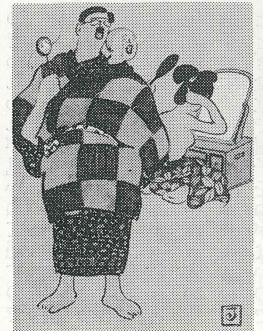
特持大五
一、二角形鋼製組立家屋
三、建設分譲解体、移動、自由自在
四、木造家屋より一割方低廉
五、数千種の設計式より選択自由
六、丸の内、丸の内線、丸の内線、丸の内線、丸の内線、丸の内線

米國ミリケン兄弟会社製の
レディーメイド銅製組立家屋

大正十年頃鈴木商店は一早く組立家屋の輸入を始め
た。これはその頃の新聞広告で勝屋利秋氏の存命中編
者の所へ持って来られたものである。思うにこれを見
ても古今東西建築の着想の変らないことに気付かれる
ことである。

(編)

以上のような苦しい経験を砥め
て来ましたのいろいろなことを



大正はじめの漫画
夫尊婦従もあったものではない